

2019年5月25日  
第128号  
(Web版第22号)

# 日本犯罪社会学会ニュース

発行

日本犯罪社会学会  
JAPANESE ASSOCIATION OF  
SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY

- I 大会実行委員長挨拶
- II 第46回(2019年度)大会 自由報告募集
- III 第46回(2019年度)大会について
- IV 事務局員の変更について
- V 新規委員紹介
- VI 各部・委員会報告

※第107号からニューズレターはWebのみで発行しております。

※会員動向につきましては、年間1回、会員のみに詳細版を郵送いたします。

## I 大会実行委員長挨拶

第46回大会の開催にあたって

野田陽子（淑徳大学）

このたび、日本犯罪社会学会第46回大会を、淑徳大学において開催させていただくこととなりました。

淑徳大学はこれまで、1989年の第16回大会、2000年の第27回大会と2度大会をお引き受けしており、今回で3度目となります。1965年に開学した本学は、前回2000年の大会時は2キャンパス2学部4学科の大学でしたが、2015年の創立50周年を経て現在は4キャンパス7学部13学科を擁するまでになりました。

今回、大会をお引き受けして、前回2000年大会当時の日本犯罪社会学会の研究動向の特徴はどのようなものであったかを振り返ってみました。厳密な考察の結果でないことはご容赦いただきたいのですが、印象としては、おそらく修復的司法について議論されるようになったのがその頃ではなかったかと思えます。また、エビデンス・ベースドということが言われるようになったのもやはりその頃ではなかったかと思えます。では、2010年代の末を振り返ってみたとき、いかなる研究動向が、大会開催までの道程とセットとなって想起されることになるのでしょうか。開催校にはこのような秘かな楽しみもあったと思っただけです。

大会を開催させていただく淑徳大学千葉キャンパスは、東京駅から電車で4～50分、さらに最寄りの蘇我駅から徒歩約20分、千葉駅からは路線バスで約30分の距離にあり、決して交通の便がいいとはいえません。また、大会の主たる会場となる15号館は、千葉キャンパスの最も新しい校舎ですが、それでも完成から今年で10年目を迎えることとなり、設備更新をしても不具合の発生が少しずつ目立つようになってまいりました。そのため、ご不便をおかけすることが多々あるかもしれませんが、大会の日程に合わせスクールバスを運行するなど、大会が実り多い成果をあげられますよう、力を尽くしてまいりますので、ぜひ多くの皆さま方にお越しいただけることを願っております。ご参加、心よりお待ち申し上げます。

## II 第46回(2019年度)大会 自由報告募集

研究委員会では、会員の皆様の自由報告を募集します。

●申込方法：電子メールにて、以下の項目をお知らせください。

・Subject（件名）：自由報告申込み

・本文

申込者氏名（所属）：

共同研究者氏名（所属）：

報告タイトル：

プロジェクトの要否：

※大会プログラムに掲載する報告概要原稿（150字以上200字以内）を添付してください。

※大学に所属のある場合、教員等は「〇〇大学」、大学院生は「〇〇大学大学院」と記載してください。

※グループの場合、当日報告される方の氏名の前に「〇」をつけてください。

※申込者及び報告者は、会員に限ります。

●申込先アドレス：[hansha.kenkyu2019@gmail.com](mailto:hansha.kenkyu2019@gmail.com)

※学会事務局など、上記以外へのお申込みは、ご遠慮ください。

●申込期限：2019年6月8日（土）必着

●問い合わせ先：日本犯罪社会学会研究委員会（担当委員：水藤 昌彦）

電子メールアドレス：[hansha.kenkyu2019@gmail.com](mailto:hansha.kenkyu2019@gmail.com)

●連絡事項：

\*自由報告は1名でもグループでも申し込めます。

\*申込者と報告者は会員に限ります。共同研究者は非会員でも構いませんが、当日の報告はできません。

\*1件の申込みにつき1つの報告となります。

\*会員1名につき、申込み及び報告は1件までとなります。ただし、他の報告者の共同研究者となることは妨げません。

\*報告時間は1件30分以内（報告時間：20分程度、質疑応答：10分程度）となります。共同研究者がいる場合でも、報告時間は変わりませんのでご注意ください。

\*申込みの時点で大会プログラムに掲載する報告概要の原稿（150字以上200字以内）をご提出ください。提出された報告概要原稿は、原則として修正できません。

\*大会プログラムに掲載された報告概要の著作権は、日本犯罪社会学会に帰属します。

\*プロジェクトの使用を希望される場合は、その旨を申込みの際にお知らせください。なお、大会当日に報告者ご自身でご持参いただく機材（PC、USBメモリ等）については、使用会場の設備が決定次第、研究委員会からご連絡します。

\*申込みを受理しましたら、今後の予定などについて、研究委員会より折り返しご連絡します。この連絡がないときは、メールの不調などが理由で申込みが不着であることが考えられます。その場合は、お手数ですが、事務局（[hansha@daishodai.ac.jp](mailto:hansha@daishodai.ac.jp)）にも同報でメールをお送りいただき、お問い合わせいただきますようお願いいたします。

\*自由報告実施の日時や会場の指定はできません。ご了承ください。

### Ⅲ 第46回(2019年度)大会について

第46回大会は、2019年10月19日（土）、20日（日）に、淑徳大学千葉キャンパス（千葉県千葉市中央区）で開催されることとなりました。現在、予定している事項につきまして、以下の通りご報告致します。

#### 1 タイムテーブル

テーマセッションの応募が多数であり、開催時間の調整のため、詳細なタイムテーブルは次号ニューズレターにてお知らせします。現在、予定している事項につきまして、以下の通りご報告致します。

10月19日（土）

9:00 受付開始

10:00 プログラム開始

20:00 懇親会終了

10月20日（日）

9:00 受付開始  
9:30 プログラム開始  
17:20 閉会式終了

## 2 企画内容について

現在のところ予定しているシンポジウム、テーマセッションのテーマ・申込者等は次の通りです。

### (1) シンポジウム

テーマ：コミュニティと犯罪  
コーディネーター・司会：野田 陽子（淑徳大学）  
報告者：竹中 祐二（北陸学院大学）  
：山本 奈生（佛教大学）  
：原田 豊（立正大学）  
：平井 秀幸（四天王寺大学）  
指定討論者：島田 貴仁（科学警察研究所）  
：高木 大資（東京大学）  
：久保 貴（東京福祉大学）

### (2) 公募企画テーマセッション

- \*テーマ：日本の死因究明制度について考える  
申込者：笹倉 香奈（甲南大学）
- \*テーマ：ジェンダーの視点から見た刑務所  
申込者：矢野 恵美（琉球大学）
- \*テーマ：特殊詐欺などの身近な犯罪から高齢者を守るには（仮題）  
申込者：齊藤 知範（科学警察研究所）
- \*テーマ：若年者に対する施設内処遇の展望と課題  
申込者：武内 謙治（九州大学）
- \*テーマ：矯正施設における社会復帰支援—多機関連携に向けて—  
申込者：仲野 由佳理（日本大学）
- \*テーマ：刑務所を開いていく「語り」とは？  
申込者：森久 智江（立命館大学）
- \*テーマ：受診者の薬物規制法違反への医療者等による対応  
申込者：平井 慎二（独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター）
- \*テーマ：国際的視点に立った刑事政策の実現—第14回国連犯罪防止会議（京都コングレス）の開催に向けて—  
申込者：山口 直也（立命館大学）

- \*テ 一 マ：犯罪者処遇への市民参加の現代的諸相  
申 込 者：高橋 有紀（福島大学）
- \*テ 一 マ：覚せい剤事犯者の社会復帰に向けた地域の役割～司法・処遇・支援の各視点から～  
申 込 者：矢作 由美子（聖徳大学）
- \*テ 一 マ：刑事政策学の復権Ⅴ：いかにすればポスト／ニーズを増やす／高めることができるか  
申 込 者：松原 英世（愛媛大学）
- \*テ 一 マ：反復違法行為者に対する治療の義務付け  
申 込 者：尾田 真言（NPO 法人アパリ）
- \*テ 一 マ：非行からの「立ち直り」と就労支援を再考する—インタビュー調査に基づいて  
申 込 者：岡邊 健（京都大学）

#### IV 事務局員の変更について

2019年3月末日をもちまして、2017年から本学会事務局員としてご尽力いただいた小野昭展氏が大阪商業大学・広報入試課へ異動しました。今年度から、大阪商業大学・学術研究事務室の中原寛子氏が本学会事務局員として着任したことをご報告いたします。

<事務局からのご挨拶>

2019年度より、日本犯罪社会学会の事務局業務を担当させていただきます中原寛子と申します。2011年の国際犯罪学会神戸大会でシンポジウムのお手伝いをさせていただきましたが、学会事務局の業務は初めて担当いたします。至らないことも多くあるかと存じますが、一日も早く日本犯罪社会学会のお役に立てるよう務めて参ります。どうぞよろしく願いいたします。

#### V 新規委員紹介

去る2019年4月27日（土）に開催された第16期第5回常任理事会におきまして、石田侑矢会員（一橋大学）を新たに研究委員として、また、編集委員の相澤育郎会員（立正大学）を庶務委員として委嘱することが決定し、同日付で委嘱状が交付されました。

#### VI 各部・委員会報告

##### 1 研究委員会

(1) 前号ニューズレターにて、第46回大会におけるテーマセッションの企画を公募致しましたところ、13件のご応募をいただきました。来年度大会以降も、企画の公募を実施する予定です。会員の皆様からのご応募をお待ちしております。

(2) 第46回大会プログラムは、9月に発行の予定です。また、大会に関する今後の情報は、学会ホームページでお知らせ致します。

## 2 編集委員会

今号より投稿締切が3月31日消印有効となりましたが、特段大きな混乱もなく、現在『犯罪社会学研究』44号の発行に向け、自由投稿論文の審査を進めております。また、課題研究・研究動向・書評についても、それぞれ準備を進めております。大会にて会員のみなさまにお渡しできる予定です。査読委員をお引き受けいただきました先生方ならびに課題研究・研究動向・書評をご執筆いただきました先生方におかれましては、お力添えを賜り厚く御礼申し上げます。

また、今号より編集委員会から依頼を出している課題研究・研究動向の各原稿については、編集委員会にて英文校閲を実施いたします。英文校閲は2016年度をもっていったん休止としておりましたが、学会誌の品質向上や国際的なプレゼンスを高めていくことを目的とし、再開する運びとなりました。なお、自由投稿論文につきましては引き続き、投稿者ご自身で英文校閲をしていただくよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

<第45号自由投稿論文及び研究ノートの募集>

【自由論文・研究ノートの投稿先】

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10 八ッ橋ビル 7階 現代人文社気付  
日本犯罪社会学会編集委員会

【投稿締切】

2020年3月31日

- \*投稿にあたっては、投稿時に日本犯罪社会学会の会員である必要があります。投稿者は（共著論文の場合は全員について）、遅くとも投稿締切日までに学会事務局に入会申込書を送達していなければなりません（同日必着）。この要件を満たさない場合は、論文を受理いたしません。現在非会員で、今後投稿を予定されている方はご注意ください。
- \*自由投稿論文の英文要旨については、投稿時点で筆者の責任においてしかるべき方法で英文校閲をおこなっていることを投稿の要件といたします。なお、査読過程で英文要旨の修正を求めることがありますので、あらかじめご了承ください。
- \*海外から投稿の場合、2020年3月31日（火）までに到着するようご調整ください。
- \*研究ノートでの審査をご希望の場合は、論文の表紙か別紙に明記していただくか、編集委員会に事前にご連絡ください。

学会誌編集業務に関するご意見・ご質問につきましては、下記までお寄せください。

<編集委員会事務局>

[hanshahenshu16@gmail.com](mailto:hanshahenshu16@gmail.com)

## 3 渉外広報委員会

(1) 研究会助成について

渉外広報委員会では、犯罪社会学に関する研究会に対し、助成を行っております。年度ごとに2件、1件あたりの助成金は40,000円です。

詳しくは学会ホームページ(<http://hansha.daishodai.ac.jp/kenkyukai/index.html>)をご参照の上、奮ってご応募ください。

## 4 本部事務局会計部

会費納入のお願い

まだ2019年度の会費をお支払い頂いていない方は、郵便振込にて会費を納入されるようお願い申し上げます。金額、口座番号および口座名は下記の通りです。

また、領収書をご希望の方は払込票の通信欄にその旨を記入して下さい。

通常会員 8,000 円

但し、院生会員 6,000 円 (大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない会員)

国外会員 7,000 円 (国外に在住し、かつ国内に連絡先を有しない会員)

郵便振替口座 00950-2-148284

加入者名 日本犯罪社会学会

会費を3年未納となりますと年度末で退会扱いとなります。滞納されていて会員の資格についてご確認なされたい方、また退会をお考えの方は、その旨を事務局まで御一報下さい。

なお、銀行振込や小切手での会費の支払いは受け付けておりませんのでご注意下さい。

## 5 本部事務局庶務部

### (1) 献本 (2019年1月11日～2019年4月23日現在)

下記の通り献本がありました。ご報告少々、お礼申し上げます。

- ・梅澤礼 『囚人と狂気 十九世紀フランスの監獄・文学・社会』 法政大学出版局
- ・法務総合研究所編 『平成30年度 犯罪白書』
- ・龍谷大学矯正・保護課程委員会編 『矯正講座』 第38号
- ・龍谷大学 矯正・保護総合センター編 『龍谷大学 矯正・保護総合センター 研究年報』 第8号
- ・法務総合研究所 『法務総合研究所研究部報告』 59号・60号
- ・龍谷大学矯正・保護総合センター発行  
『キャンベル共同計画 介入・政策評価系統的レビュー』 第13号
- ・小関慶太 『こども・先生のための法学入門』 三和出版社 (電子版)

・・・・・・・・・・・・・・・・以上8冊

### (2) 会員数 (2019年4月23日現在)

一般会員 452名、名誉会員 14名、終身会員 1名、特別会員 2団体、合計 469名

※個人情報保護のため、ニューズレターの記載は人数のみとします。会員各位には、年間1回、会員動向の詳細版を郵送いたします。

\*\*\*お願い\*\*\*

転勤等で所属や連絡先を変更された場合は、学会事務局まで速やかにご連絡下さい。

事務局では、会員の皆様からのご意見、ご要望、インフォメーションなど随時承っております。

日本犯罪社会学会 事務局

〒577-0036 東大阪市御厨栄町3-1-35 学術センター U-Box 2F

TEL : 06-6618-4324 (月～金 10:00-16:00)

FAX : 06-6781-8883

E-mail : hansha@daishodai.ac.jp

\*お問い合わせ・ご連絡は、なるべくメールでお願いいたします。